

探求通信

中山中 探究学習担当発行

令和6年6月13日

本校では昨年度の2年生に引き続き、今年度は全学年でクエストエデュケーション(探究学習)に取り組みます。

クエストエデュケーションとは・・・

(2学年PTA 総会資料より)

現実社会と連動しながら「生きる力」を育む探究学習プログラムの総称です。(開発：教育と探求社)

激しく変化する社会の中で、生徒たちが主体的に社会と関わり、自ら望む人生を送るための学びが体験できます。教室の中にいながら、現実社会につながるテーマに取り組みます。テーマに取り組む中で、社会や企業に対する興味・関心が生まれ、自ら感じ、考え、表現し、生徒自身でも驚くような力を発揮しています。

2023年度の導入学校は、全国42都道府県、440校、約8万8,000人。(山形県では、本校の他に、天童三中、東根二中が導入し、今年度、新たに致道館中、山辺中、東根一中也導入します。全国大会は、山形県教育委員会も後援しています。)探究学習プログラムでは、日本最大規模です。

1年生 「クエスチョンX」 教材費は、経済産業省「働き方改革支援補助金2024」を活用します。カードゲーム形式で、生徒が自ら問いをつくり、問いを持って生きる面白さを体感するプログラムです。「問いを立てること」それは探究学習のベースです。問いの面白さに気づき、世界が問いにあふれて見える。そんな状態に生徒を誘い、すべての授業・日常から探究的に学び続ける姿をつくり出します。山形県内では、初導入です。

2年生 「コーポレートアクセス」 企業と共に未来をつくる。実在する企業へのインターンを体験し、働くことの意義を探究する。実在する企業へのインターンを教室で体験し、働くことの意義や経済活動について学びます。企業という仕組みを活用して、自分たちの手で未来をつくることを学ぶプログラムです。アンケート調査など企業の実務を体験し、企業から出される課題(ミッション)に取り組みます。企業理念を踏まえたリアルな課題に取り組むことで、社会や企業に対する興味・関心が生まれ、生徒一人ひとりの主体性と創造性を育むとともに職業観を醸成します。



下記は、2023年の協力企業



3年生 「ソーシャルチェンジ」 教材費は、経済産業省「働き方改革支援補助金2024」を活用します。自ら課題を発見し、その解決を探究します。身の回りの困っている人を見つけ出し、彼らを助け、笑顔にする企画を考えます。生徒は、自ら見つけた課題に当事者として向き合い、その解決にチームで取り組み、発表します。社会の一員としての自分の役割を認識し、自ら動き出せる主体性、世の中に新たな価値を生み出す創造性、周りの人を巻き込み実現していく、協働する力を育みます。

なぜ、クエストエデュケーション(探究学習)を導入するのか・・・

学習指導要領 総合的な学習の時間の目標の一つに「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」とあります。クエストエデュケーションのプログラムは、正に主体的で対話的な深い学びにつながるように構成されています。

山形県第6次教育振興計画 目標として「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を掲げています。クエストエデュケーションでの学習を通じて、目標達成に近づくものと考えます。

全国学力学習状況調査 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問項目があります。ある学校の資料によれば、クエストエデュケーション導入前は、「当てはまる」の回答が15ポイント(全国平均20ポイント)だったものが導入後は、44ポイント(全国平均29ポイント)に跳ね上がったという実績があります。

入試制度の改革 現中学2年生から公立高校の入試制度が大きく変わります。自己推薦入試が廃止され、前期・後期の入試制度になります。特に前期の入試では、面接、作文、プレゼンテーションなど多様な入試が行われ、探究学習に取り組んだ成果が評価されます。大学入試でも、ペーパー試験よりも総合選抜型入試を行う大学が増えています。

探求通信

中山中 探究学習担当発行

令和6年6月24日

探究と探求・・・

山形県の公立高校の入試では、毎年探究科(探究コース)の人気が高く、高倍率となっています。高校の授業にも「古典探究」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「理数探究」「総合的な探究の時間」など、新しい科目が設置されるようになりました。探究と探求の違いを調べてみると、一般に下記のように言われています。

「探究」とは、物事の本質を探し究めること。調査して研究すること。「探求」とは、さぐり求めること。搜索すること。わかりやすいように、表にまとめると

	何を？	目的は？
探究	物事の真の姿を	明らかにすること、見きわめること
探求	どこにあるかわからないものを	手に入れること、探し求めること

探究も探求も、どちらも意義があり、必要な学び方です。その意味合いを2つの例にたとえてみたのが、登山型と航海型です。

「登山型の探究学習」というのは、科学的な探究や研究に近いものです。

まだ、わかっていない問いに対する答えを科学的に検証していく。今わかっていないことを明らかにするようなイメージで、探究学習というときに山の頂上を目指して登山するようなものと考えられます。どんなルートで頂上をめざすか。どんな装備を準備するか。登るペースもさまざまです。問題をどう解決するか。どんな科学的な手順で明らかにしていくか。というのが「登山型の探究学習」であり、それは「探究」と言えます。

それでは、「航海型の探究学習」とは、どんなものでしょうか。

自分が今まで当たり前だと思っていたものが揺るがされて、「あれ？実はわかってないかも」と気づくところから探究が始まっていきます。そして、船に乗って世界中の様々なところを探検していき、答えを探し求めていくようなものです。

「航海型の探究学習」では、登山のように上り詰めていく、突き詰めていくというよりは、「どんどん世界が広がっていく」というイメージです。よって「航海型の探究学習」は「探求」に近いと考えています。「探求」とは、冒険的と言っていいでしょう。

本校で導入している「コーポレートアクセス」「ソーシャルチェンジ」の学習は、「航海型」であり、「探求」に近いものと考えています。本通信のネーミングも「探求通信」としました。

(参考文献 教育と探求社 学校コーディネーター 佐藤瞬 探究学習入門)

1年生 「クエスチョンX」 先生方のオンラインによる事前研修会を終えた後、2学期に始める予定です。

2年生 「コーポレートアクセス」 先生方のオンラインによる事前研修会も終えて、現在STEP2を終了したところです。STEP3では、企業からのインターン生の募集が始まります。STEP4では、エントリーシートをもとに希望の企業に応募します。企業決定後、チームに分かれてチーム名、チーム目標、リーダーを決定します。

3年生 「ソーシャルチェンジ」 先生方のオンラインによる事前研修会では、右の写真のように困っている人を「認知症の人」として原因を深掘りしました。はじめてのプレゼンテーションとして、学級担任が提示したユニークな課題に対して、各チームが知恵を絞って工夫を凝らした提案を考えていきます。提案は、授業参観日に発表しますので保護者方も是非ご参観下さい。

～ 授業参観について ～

1. 日時：7月17日(水) 2校時 9:45～10:35(総合)
2. 課題：1組「全校生徒で1億円を稼ぐ方法」
2組「屋上を使って生徒の幸福度をアップせよ」
3組「スマホを使って学力アップ」

